希学園 第414回 小5公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第414回公開テスト 小5算数 解説動画(2026年11月8日実施)	https://vimeo.com/1244626116/a6684f6b38

希学園 第414回 公開テスト 小５ 算数　2026年11月８日実施 模範解答 制限時間40分

1

(1)	11654	(2)	㋐ 35.0	㋑ 1	(3)	$\frac{23}{60}$	
(4)	1	(5)	41		(6)	22200	
(7)	㋐ 2（時間）	㋑ 46（分）	㋒ 39（秒）	(8)	2.35 $(2\frac{7}{20}, \frac{47}{20})$（m）	(9)	13（日）
(10)	4（cm²）						

(2)(7)；各完答

2

(1)	100 個	(2)	21 個	(3)	120 個

3

(1)	32 才	(2)	7 才	(3)	8 年後

4

(1)	2 人	(2)	3 人	(3)	25 人

5

(1)	45 cm²	(2)	11.25 $(11\frac{1}{4}, \frac{45}{4})$ cm²	(3)	5 cm²

6

(1)	4 通り	(2)	3 通り	(3)	7 通り

（配点）各４点×25

希学園 第414回 公開テスト 小５ 算数　2026年11月８日実施 解説（２－１）

1⑸　77＋414÷(223－□×５)＝100
414÷(223－□×５)＝100－77＝23
223－□×５＝414÷23＝18
□＝(223－18)÷５＝41

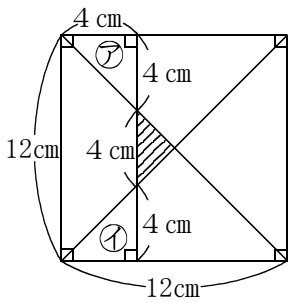
⑹　333×27＋444×６＋555×19
＝111×３×27＋111×４×６＋111×５×19
＝111×(81＋24＋95)＝111×200＝22200

⑺　9999秒÷60＝166分余り39秒
166分÷60＝２時間余り46分

⑻　12.5cm×８＋375mm×４－0.75km÷5000
＝100cm＋1500mm－750m÷5000
＝１m＋1.5m－0.15m＝2.35m

⑼　2027年は平年なので，400日後＝１年＋35日後
11/８＋35＝11/43 → 12/13

⑽　全体が正方形であることから，対角線によって，右の図の㋐，㋑が，直角二等辺三角形で，斜線部分も直角二等辺三角形となる。
12－４×２＝４(cm)
底辺を４cmとしたとき，高さは，
４÷２＝２(cm)
よって，４×２÷２＝４(cm²)



2　以下のように表にまとめる。

番目	1	2	3	4	…
白	1	1	6	6	…
黒	0	3	3	10	…
和	1	4	9	16	…
差	1	2	3	4	…

和は，番目×番目の平方数。
個数は，奇数番目では白が，偶数番目では黒が多い。

⑴　10×10＝100(個)

⑵　和；６×６＝36(個)　差；６個
偶数番目で黒が多いので，(36＋６)÷２＝21(個)

⑶　和；15×15＝225(個)　差；15個
奇数番目で白が多いので，(225＋15)÷２＝120(個)

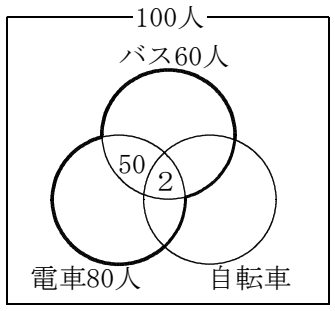
3⑴　47年後，子ども３人の年令の和は，15＋47×３＝156(才)
よって，現在の両親の年令の和は，156－47×２＝62(才)
62－30＝32(才)

⑵　父と母の年令の差は，32－30＝２(才)
現在の花子を□才とおくと，子ども３人の年令の和は，
□＋(□－２)＋(□－４)＝15(才)と表せる。
□＝(15＋２＋４)÷３＝７(才)

⑶　①年後に，両親の年令の和が子ども３人の年令の和の２倍になるとすると，
62＋①×２＝(15＋①×３)×２と表せる。
62＋②＝30＋⑥
④＝32 → ①＝８(年後)

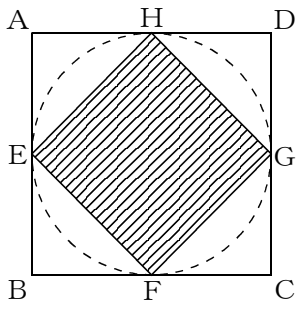
4⑴　60＋80－100＝40(人)より，バスと電車の両方を利用している生徒は，40人以上60人以下と分かり，
バスと電車と自転車を３つとも利用している生徒の25倍の関係となるのは，２×(１＋25)＝52(人)のみ。
よって，２人。

⑵　右の図のようにベン図にまとめると，
バスまたは電車を利用している人は太線部分の，
60＋80－52＝88(人)
自転車だけ，もしくはいずれも利用していない生徒の合計人数は太線部分以外なので，100－88＝12(人)
よって，12÷(１＋３)＝３(人)

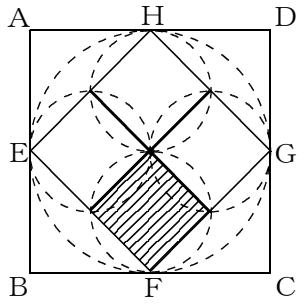


⑶　全体から，０種類，２種類，３種類の人数をひけばよい。
100－(３＋70＋２)＝25(人)

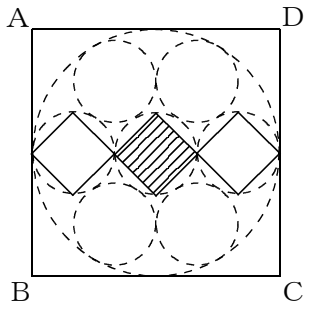
5⑴　右の図のように，正方形を回転させる。正方形ＥＦＧＨは，正方形ＡＢＣＤの半分なので，
90÷２＝45(cm²)



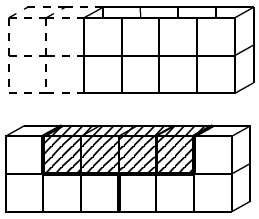
⑵　右の図のように回転させた正方形を，全ての小円の中にかきこむと，⑴の正方形ＥＦＧＨの４等分と分かる。
45÷４＝11.25(cm²)



⑶　右の図のように，回転させた正方形をかきこむ。
正方形ＡＢＣＤの１辺の長さを□cmとおくと，□×□＝90(cm²)
斜線部分の正方形の対角線は，□÷３と表せるので，斜線部分は，
(□÷３)×(□÷３)÷２
＝□×□÷18＝90÷18＝５(cm²)

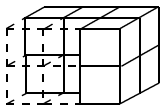


6(1)　右の図のように，Ｏを点線の位置に入れると，残りのたて１㎝，横４㎝，高さ２㎝をうめれば良いので，問題文より，３通り。
Ｏを使わないのは，Ｉを１個とＬを２個用いる右の図の１通り。
よって，３＋１＝4(通り)

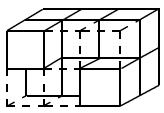


(2)　１辺１㎝の立方体が，２×３×２＝12(個)入る大きさなので，12÷４＝３(個)のブロックが入る。
また，たて，横，高さがともに４㎝未満なので，Ｉを使用できない。
横３㎝に合わせないと入れることのできないＬの個数で場合分けを行う。

・Ｌを２個使うとき
以下のように配置できる。

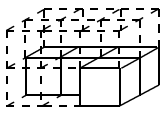


あと，Ｏを１個。

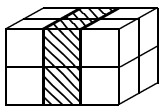


あと，Ｓを１個。
よって，２通り。

・Ｌを１個使うとき
以下のようにＬを配置できるが，
ＳとＯを用いて，残りをうめることができない。



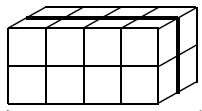
・Ｌを使わないとき
以下のように，Ｏを３個使う１通り。



よって，２＋１＝3(通り)

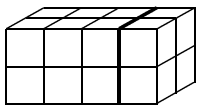
(3)　１辺１㎝の立方体が，２×４×２＝16(個)入る大きさなので，16÷４＝４(個)のブロックが入る。

・箱を右の図のように太線で，
たて１㎝，横４㎝，高さ２㎝
の箱２つに分けて考える。



問題文より，箱１つをうめる組み合わせはＩを２個，Ｏを２個，Ｌを２個の３通り考えられる。
よって，箱２つをうめる組み合わせは，Ｉを４個，Ｏを４個，Ｌを４個，ＩとＯを２個ずつ，ＩとＬを２個ずつ，ＯとＬを２個ずつの６通り。

・上記の箱２つをまたぐ場合，右の図のように，たて２㎝，横３㎝，高さ２㎝とＯ１個に分けると，(2)より，Ｏ１個とＬ２個，Ｌ２個とＳ１個，Ｏ３個の３通りにＯを１個加え，Ｏ２個とＬ２個，Ｏ１個とＬ２個とＳ１個，Ｏ４個の３通り。



Ｏ４個，Ｏ２個とＬ２個の２通りは重複しているので，
６＋３－２＝7(通り)

(配点)各４点×25